

CHALLENGE21



チャレンジ21/1997年12月1日発行/第1巻第3号(通巻3号)/発行:全国障害者福祉援護協会

1年間の活動のご支援ご協力に感謝申し上げます。



1年間の活動をふりかえって

理事長 永田近

「ノーマライゼーションの理念の普及」「障害者団体への各種支援」「高齢者福祉の研究・提言」を活動の三本柱として全国障害者福祉援護協会を設立して一年が経過いたしました。チャレンジメン援護協会を引き継いでの協会設立ではありましたが、理事に就任して頂きましたが、殆どの方々がこの様な活動に本格的に取り組むのは初めての事であり、戸惑いを感じながらのスタートでありました。特に協会を運営して行くには先ず経費が掛かります。当

協会の経費は法人・個人会員の会費でもって賄われておりますので、会員を募ることから始めなければなりません。企業、労働組合を始め各種法人・団体そして個人など多くの方々のご協力を頂きなんとか事務所の維持ができるようになりました。会員の皆様から心からお礼を申し上げます。

また理事の皆様とりわけ常任理事の皆様には当協会設立の準備段階、そして設立された以降もあらゆる面で大変な協力を頂きました。こうしたご協力

がなければ到底今日を迎える事は出来なかつたと思います。加えて理事の皆様のご協力、ご支援がこの一年間の活動を支えた大きな力であり、心よりお礼申し上げます。

当協会が目的に沿って本格的な活動を開始いたしましたのは昨年11月の発足チャリティパーティ以降であり、活動計画を立てたものの本当に実行できるのか極めて不安な日々でありました。

試行錯誤の連続

手話教室を開催するのどの様にして受講者を集めたら良いのか、会場を何処にしたら良いのか、講師のお願いを何処にしたら良いのか、全てが手探りの状態からの出発でしたが、初級が30名、中級が40名それぞれ6カ月の期間で年間を通して実施できるようにしました。また12月から第3回目を開催するにあたり、受講者を抽選で決めさせて頂く程になり大変喜ばしい事と思っております。

当協会の活動の柱であります「ノーマライゼーションの理念の普及活動」を実施するにしても障害を持っておられる人をお呼びするのどのようになら良いのか、そうした人をお呼びした場合の会場には何を準備しなければならぬかなど本当に頭を悩ませたものでした。「案ずるより生むが易し」理事の皆様の大なご協力の下で横浜ラポールにて障害のある人、健常者合わせて150名が参加し無事終える事ができ、しかもこうしたイベントを今後も続

けて貰いたいとの意見を頂いた時には本当に嬉しく思いました。

皆様を支えられて

県外での初めての取組みとしては、広島県福山市での「ノーマライゼーションの理念の普及」に向けての講演会となりました。これにはNKK福山労組の皆様が大変なご協力を頂き無事終了することができ、改めて関係者にお礼を申し上げます。「障害者の各種団体への人的支援」については、県外からの申し込みを含め100名を超えるボランティアの皆様に登録を頂いており、労働組合の方々との協力などで今日まで10回を超える対応を行い150名のボランティアを派遣してきました。派遣先では参加されたボランティアの皆様に対し感謝の挨拶が贈られ、ボランティアの皆様も心にはのぼのぼとした充実感を覚えられた事と思っております。

今後は県外でのこうした取組みについてどの様に対応し行くのかが大きなテーマになってきます。日本盲人会連合のカタログ冊子の作成にもご協力することができ関係者の皆様が大変喜んで頂きました。これも障害者団体への支援策の一環であり今後も継続し更に充実したものにしていきたいと考えております。

「各種団体への寄付」をして行くためのチャリティイベントは発足パーティを始めゴルフを2回実施することができ、さらに理事の皆様そして会員の皆様のご協力のもとそれぞれ

れ初期の目標に近いチャリティをして頂きました。

こうした多くの皆様の善意は当協会の主旨に沿って使われており多くの団体からお礼のご挨拶を頂きました。これは参加頂きました皆様への感謝の気持ちを当協会が代表してお受けしたものと考えております。

1年間ありがとうございました

これまでの一年間で対応してきました主な取組み内容(詳しくは別掲)をご紹介します。始めの取組みであり至らない点が多々ございましたが、当初予定した活動計画の約80%を消化することが出来ました。これもひとえに私ども事務局に対します関係各位のご支援、ご協力の賜物であり衷心より感謝申し上げます。本年も残り僅かになりました。新しい年には今年度の活動を反省し皆様と一緒に当協会の目的達成に向かって邁進して参りたいと考えておりますので、皆様にはさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが関係者の皆様には希望に満ちた新年を迎えられご健勝にて過ごされますようご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



全国障害者福祉援護協会
理事長 永田 近

講演会

「交通労連関東総支部研修会」 で300人を対象に協会 の趣旨とボランティア活 動について講演

7月9日栃木県鬼怒川温泉で行われた交通労連関東総支部97年度夏期研修会で組合役員300人を対象に、永田理事長が「ボランティア活動について」の講演を行いました。

障害者に対する考え方や接し方、これからの障害者福祉のあり方について講演し、また障害者に対するボランティア活動の積極的参加を呼びかけるなど、熱のこもった話は出席者に感銘を与えました。

今後も可能な限り各方面に出向き当協会の目的達成に努力していきます。



300名の組合役員を前に講演する永田理事長

テーマ:「障害者福祉施策の現状」

社会福祉法人 日本盲人会連合会長
講師 村谷昌弘

村谷会長の講演内容を項目別にご紹介させていただきます。

①国内における障害別人口について(平成3年の推計)

障害者の中には大きく分けて「身体障害者」「精神薄弱者」「知的障害者」「精神障害者」と言われる人たちがいます。さらに分けていくと

○身体障害者 (20歳以上)	155万3,000人…	〈肢体不自由〉
	45万8,000人…	〈内部障害〉(呼吸器・消化器・内臓系など)
	35万8,000人…	〈聴覚障害〉
	35万3,000人…	〈視覚障害〉
計	272万2,000人	
※20歳未満や施設に入っている人たちを含めると約300万人と言われている。		
○精神薄弱者	50万人	
○精神障害者	150万人	

合計約500万人の障害者が国内にいる。この他に原因不明の難病を含めると500万人以上が障害者と言われる。

②障害者に対する国内の施策について

江戸時代では目の不自由な人へ自治権を与え、あんま、金融などを専業化していた。明治にはいとと従来の自治権を解消し、戦上で戦い障害者になった戦障者が国から保護され優遇されてきた。しかし昭和20年8月の敗戦後、連合軍により戦障者に対しての保護はいっさい認められなくなった。その後、

- ・昭和24年12月身体障害者福祉法が国会で可決。 ・昭和34年障害福祉年金を給付。
- ・昭和35年精神薄弱者福祉法、身体障害者雇用促進法が可決。
- ・昭和45年心身障害者対策基本法可決。 ・平成5年障害者基本法可決。

③内外における主な障害者政策

1975年国連の人権宣言 1981年国際障害者年 1983年国連障害者の10年
1993年アジア太平洋障害者の10年 1995年障害者プラン

④障害者プランとは

1. 広報・宣伝・啓発
2. 医療
3. 教育
4. 雇用
5. 福祉
6. 環境
7. リクレーション
8. 国際交流などを積極的に行っていく。

⑤障害者の活動について

- ・日本身体障害者団体連合会(日身連)
 - ・日本障害者協議会(日障協)
 - ・全国社会福祉協議会(全社協)
 - ・日本障害者リハビリテーション協会
- 以上4団体が「国際障害者年推進会議」を作り、内外の障害者問題に取り組んでいる。

村谷会長は成人病や交通事故などいつどこで障害者になるか分からないので、是非お体を大切にしよう心がけて頂きたいと最後を締めくくりました。

「ノーマライゼーション」 の講演会を広島県福山市 で実施

8月26日広島県福山市の日本鋼管福山製鉄所労働組合で福祉専門委員ボランティアネットワークメンバーを対象にノーマライゼーションの理念についての講演会を実施致しました。

冒頭、当協会の永田近理事長から当協会の設立趣旨、活動理念である3つのテーマ「ノーマライゼーションの理念の普及」「障害者団体への材的、物的、人的支援」「高齢障害者の福祉の拡充」



日本盲人会連合会長 村谷昌弘氏

について、また設立から今日までの活動内容や今後の活動計画などを話しました。この中で特にボランティア活動の必要性、重要性について強く訴え、会場内のボランティアネットワークメン



ボランティアネットワークメンバーの前に

バーの方々今後の活躍を期待する旨挨拶を行い、引き続き村谷会長の講演に入りました。
日本盲人会連合の村谷昌弘会長の講演は「障害者福祉施策の現状」をテーマに

「横浜市脳性マヒ者協会」 設立二十周年記念大会」 に出席して

永田近

9月21日横浜市脳性マヒ者協会設立20周年記念大会が横浜市健康福祉センターで開催されました。

大会を控えた9月3日に横浜市脳性マヒ者協会の島田守雄会長が車椅子を駆って案内状を持って当協会にみえました。

大変な道程を車椅子を駆っての来室であり本当にビックリいたしました。当日会場では脳に障害を持っておられる方々が司会進行から挨拶すべてに亘って担当されている様子を拝見し、まさに大会のスローガンであります「あなた生きてますか」そのものの光景であり、その「生懸命な姿」に感動さえ覚えました。

このように脳に障害を持っておられる方々が「脳性マヒ者協会」を設立され20年間活動を展開され今日に至っているのではありませんが、関係者の皆様のご挨拶を拝聴致しておりますと、今日までの道程は大変な苦勞の連続ではなかったかと思われました。

こうした脳に障害を持っておられる方々が本当に生懸命に生き、頑張っている姿を拝見して、私たちは全国障害者福祉援護協会が掲げているテーマに沿った取組みを半歩でも一歩でも進めて行くことの必要性を改めて痛感致しました。

1マに1時間にわたって行われ、出席者全員がメモを取るなど終始真剣な眼差しで聴き入っていました。講演内容の骨子は別掲の通りです。

イベント

「ボランティア入門講座」を開催



車椅子の介助法を聴く参加者

全国障害者福祉支援協会では8月24日横浜市社会福祉センターにおいて、横浜市の後援、社団法人・横浜市社会福祉協議会の協力のもと「ボランティア入門講座」を実施いたしました。

参加者の募集にあたり40名の定員に対し102名の応募があったことはボランティア活動に対する関心の高さを示すものと思います。

冒頭、当協会の永田理事長より講座の趣旨や活動内容について挨拶をした後、



アイマスクによる体験

具体的な講座に入りました。

講座は「車いす介助法」を講師・武井達雄氏(名無しの権兵衛会長)、「視覚障害者の生活と心理」についての講演を上杉惇氏(磯子区視覚障害者福祉協会会長)、「視覚障害者の誘導法」を野本ひろみ氏(KAMEの会代表)に指導していただきました。

受講者の殆どが車いすに触れるのが初めてといった方たちで、中には子供さんと一緒に家族で参加された方もあり、楽しく真剣に受講されていました。終了後の感想では「大変良い経験がすることが出来、今後も是非こうした機会を作りたい」と言った声や沢山の声から出され、主催者一同大変心強く感じました。

当協会といたしましては、こうした参加者の声を大切にしながら今後も引き続き取り組んでゆきたいと考えています。

寄稿

「ノーマライゼーション」の語り部 片マヒ自立研究会 主宰 森山志郎



習字を披露する森山志郎氏

私がこの「ノーマライゼーション」と出会ってから、日はまだ浅い。人生とはひたむきに会社の仕事に打ち込むことと信じていた私は、大病もせずに55歳の定年を迎えてほっとした。定年を延長して二年後、突然の脳梗塞で入院する羽目になった。生まれて初の大病で6ヶ月の病院生活から解放されても、右手は動かさず歩行もままならぬ「二級障害者」の手帳が一緒の体だった。

退院した私は、健康な時代には気にも留めなかった小さな段差が巨大な壁になって立ち足はたかっているのに驚愕した。歩く時は足元に神経を集めているので話もできない。駅に行くとき高い階段の上り下りに溜息をつく。狸寝入りをするシルバースートの前に立つて荒れた人の心を見る。バスの高いステップに苦闘し、急発進の衝撃で転倒しないかと恐怖を味あう。そんなバリアを克服しながら何とか社会の一員として生きていく努力を続けたが、どうしても個人の努力では解決出来ないバリアが多いことに気がついた。健康な体力を前提にした社会のシステムが壁になっていることに気がついたのである。

数年の間、温かい人間関係に恵まれたお陰で、ようやく障害と共に生きる心境に到達した心の遍歴を『歩けた！手が動いた』にまとめて出版した。障害と共に生きる覚悟ができること、周囲の世界が落ち着いてみることでできるようになった。そして私自身の役割として、高齢化社会が直面している問題や将来当面する問題を先取りして提起できることに気がついた。私

が不便に思う駅の階段、バスの高いステップに苦闘し、急発進の衝撃で転倒しないかと恐怖を味あう。そんなバリアを克服しながら何とか社会の一員として生きていく努力を続けたが、どうしても個人の努力では解決出来ないバリアが多いことに気がついた。健康な体力を前提にした社会のシステムが壁になっていることに気がついたのである。

数年の間、温かい人間関係に恵まれたお陰で、ようやく障害と共に生きる心境に到達した心の遍歴を『歩けた！手が動いた』にまとめて出版した。障害と共に生きる覚悟ができること、周囲の世界が落ち着いてみることでできるようになった。そして私自身の役割として、高齢化社会が直面している問題や将来当面する問題を先取りして提起できることに気がついた。私

ツブ、そんな物は10年後の高齢化社会では国民の大多数が難儀に感じるのである。

健康な人を前提に作られた社会のシステムをそのまま改善しなければ、外出できず家に引き籠もる人が増える。若い人が高齢者を支えるのではなく、高齢者が高齢者を支える社会では、高齢者が自由に行動できる街でなければならぬのである。21世紀までにはノーマライゼーションの枠組みを整備しておかねばならないのだ。もう、待たなしの時期である。

障害のため経済活動の職場を失った私にもノーマライズされた社会の枠組みを孫の世代に残すという挑戦課題が残されている。そして、今日もささやかな私の体験を「語り部」として広く皆さんに訴える「日があけていく」。

森山 志郎 (片マヒ自立研究会 主宰)

- 昭和4年 大分県中津市生まれ
- 昭和28年 九州大学法学部卒業
- 同年 古河鋳業(株)入社
- 昭和38年 同社閉山業務完了のため退社
- 同年 旭化成工業(株)入社
- 昭和63年 同社定年退職
- 平成3年 「歩けた！手が動いた」(主婦の友社)を上梓
- 平成4年 片マヒ自立研究会創立
- 平成8年 「左手の隷書」が凌雲書展で秀作賞を授与
- 現在まで 看護学会成人病部会のパネラー
看護教育大学、医療技術大学、
全国保健婦研修会の講師
各地保健所、福祉課、社協等主催の講演会
「看護」「公衆衛生」などの寄稿
研究会の開催と各種資料の作成と発行など
多義にわたって活躍中



▶ 左手で書いた直筆署名

現住所 横浜市泉区和泉町6236-10 〒245

ボランティア活動報告

障害者の介助・イベント運営のスタッフとして登録ボランティア要員の皆様と活動を行っております

◆接してみても初めて分かる

ノーマライゼーション◆

「ノーマライゼーションの理念の普及」これは当協会の活動テーマの一つであります。

普及と一言で言ってもそう簡単な事ではありません。書物やその他の文献資料を読み、人の話を聞きそしてメディアなどから送られてくる情報によりある程度の理解は可能です。しかしそれらは視覚や聴覚から得られる情報であり知識であり、頭が理解しているだけのものでしかありません。

ある人が「障害者の方と接する時にはこれは言っではいけません、これはしてはいけません、こうした方がいいです」と長々と難しく説明している。そのためかどうかわからないが「意味は分かるがどうしたらいいのか、何をしたらいいのかよく分からない」といった声をよく耳にします。

障害のある人たちに特別な事をしようとするのではなく、ただ普通に接することができればよいのだと思います。とはいえ障害を持つてのが故に不都合な事もあります。そんな時ちょっと手

を貸したり、ちょっと声をかけてあげることができればよいのだと思います。

ボランティア活動に参加された方からの感想文を会報2号で掲載しましたが、その中で「友達同士で出かけたとき、仲間の一人が足をくじいたら、荷物を持ってあげるとか肩を貸してあげる」と言っています。ノーマライゼーションとはまさにこの事であり、我々が普段している事なのです。障害のある人たちと接してみても初めてノーマライゼーションの本来の意味が分かってくるのです。

障害のある人もない人も皆同じです。気短な人もいれば、心優しい人もいます。陽気な人もいれば陰気な人もいます。障害があるからと言って特別視することは全くないのです。障害だけを見て人を見ていないのです。それは障害のある人たちと接したことがないからだと思えます。

ボランティア活動を通して多くの障害者の方と接し、一人一人がノーマライゼーションを肌で感じていただければと思います。

現在、当協会には100名以上のボランティア要員が登録されており、その方々にできるだけ沢山の活動をご案内して参加していただきたいのですが、当協会はまだまだ微力のため今のところ神奈川県を中心にしか活動ができません。皆様の協力とご支援を頂きながら一人でも多くの方が参加できる活動を行っていきたくと考えております。

●横浜市長杯争奪ボウリング大会(7月6日)



競技者を介助するボランティアの方々

梅雨はどこへ行ってしまったかと思わせるような真夏日がこのところ続き、この日も30度以上の猛暑。視覚障害者33名が集まり白楽ボウル(神奈川県)で市長杯争奪戦が行われました。

10名のボランティアが介助にあたり、障害者の方々と共に競った会場は熱気ムンムン。全員が汗を拭いながらの大会でした。

表彰式では当協会会員の方からご提供いただいた品々を参加賞として全員に贈り、参加者の皆様そして主催者の浜視協(社団法人横浜市視覚障害者福祉協会)より感謝の言葉を頂きました。

●盲人卓球大会(9月14・15日)

9月14日・15日の両日、障害者研修保養センター(都筑区)にて盲人卓球大会が開催されました。

社会福祉法人日本盲人会連合関東ブロック協議会・社団法人横浜市視覚障害者福祉協会共催の「第11回日盲連関東ブロック・盲社会人卓球大会横浜大会」は、都六県から男子27名女子20名の選手が集まり、2日間トーナメント方式で行われました。卓球台4台

で男子女子それぞれ白熱した試合を展開。10名のボランティアが、球拾いや選手の介助を行うなど大会の運営に協力をしてきました。

大会は来年神奈川県で行われる「第三十四回全国身体障害者スポーツ大会」(ながわ・ゆめ大会)の前年と言ったこともあり、大変な盛り上がりを見せ、回戦から熱戦の連続でした。ボランティアの皆様は全員が視覚障害者の卓球を見るのが始めてのこと、選手のファイト溢れる試合に驚いたり、感動したりの連続でこうした大会のお手伝いすることができたことに大変感激していました。

盲人卓球は暗闇者が行うのとは違い、小さな鉛玉が入ったボールを使用し、卓球台の上を転がし競技を進めていく。鉛玉が入ったボールは転がすとジャラジャラと音が鳴るのでその音を頼りにラケットに当てていく。中央のネットの下をくぐり抜けてボールを打ち返すため、強く打つとネットに跳ね返ってアウトとなる。またラケットで弾くようにボールを打たないとホールディングをとられアウトになるなど、ルールはきわめて厳しく、なかなか見応えのあるスポーツでありました。参考に盲人卓球の説明や競技方法を6頁に掲載しましたのでそちらをご覧ください。



全盲・弱視を問わず 全員がアイマスクをして挑む

●「第十四回横浜市身体障害者運動会」に全電通労組横浜支部より多くのボランティアが参加(10月12日)

社団法人横浜市身体障害者団体連合会・横浜市傷痍軍人会主催の運動会は秋晴れの屋外横浜ラポール・グラウンドで行われました。完成間近の陸上競技場に隣接したグラウンドには肢体・視覚・聴覚・咽頭・車イス・脳性・腎臓・オストミー・難聴・呼吸・体指などの障害のある人たちやその家族そしてボランティアが集合、総勢600人が参加しました。

いろいろな障害を持った多くの人たちがそれぞれのハニデイをもとめせず、パン食い競争・騎馬戦・綱引きなどの各競技に参加し、楽しい雰囲気の中で行われた大運動会でした。当協会からは全国電気通信労働組合横浜支部組合員18名をはじめ30名が集まり、その他の団体併せて100名近く参加したボランティアは競技運営のスタッフとして、また各障害者の介助をするなどの役割を分担。時には一緒になって競技に参加するなどして行ったボランティア活動は大変勉強になり、意義のある一日であったと感想を述べていました。



第14回横浜市身体障害者運動会・横浜ラポール・グラウンドにて

連合神奈川より70万円相当の品物を寄付して頂きました。

いつも大変なご支援を頂いております。連合神奈川よりタイピンやカフスなど70万円相当の品物をご寄付頂きました。

頂きました品物につきましては全国障害者福祉援護協会の諸活動の際に記念品として活用させて頂きたいと思っております。

紙面をお借りして連合神奈川の皆様に厚く感謝申し上げます。

連合本部から「連合・愛のキャンパ」100万円の寄付を頂きました

日本労働組合総連合会から去る7月17日「連合・愛のキャンパ」を頂きました。

これは日本労働組合総連合会が毎年「連合・愛のキャンパ」として国内外で社会貢献している福祉団体に贈呈しているものであり、本年は11団体がその対象となりました。

全国障害者福祉援護協会が「連合・愛のキャンパ」を頂くことが出来たのは、私たちの活動を評価し今後の活動に期待するといった意味のものであると認識しております。

私たちはこうした連合の暖かい励ましに励まされるような活動を展

開いて行かなければならないと決意を新たにしています。

今回の日本労働組合総連合会の皆様のご支援に役員一同より感謝し会員の皆様にご報告致します。

「盲人用器具カタログ価格表」作成に協力



平成9年度盲人用器具カタログ価格表

平成9年度版「盲人用器具カタログ価格表」が全国障害者福祉援護協会の作成協力のもとで完成いたしました。

「盲人用器具カタログ価格表」は視覚障害者が使用する器具の価格表であり毎年厚生省の認定に基づいて作成されているものであります。

視覚障害者や家族の方々が、使いやすい見やすいものを作成するには限られた予算の中では大変難しいのであります。今回は多くの企業、団体の皆様にご支援を頂きながら大変立派な「盲人用器具カタログ価格表」を作成することが出来ました。

ここに改めてご支援を頂きました皆様にお礼を申し上げます。

こうした私たちの取り組みに多く

の企業・団体の皆様は格段のご支援を頂きました。「盲人用器具カタログ価格表」の末尾にお名前を掲載して社会福祉法人日本盲人会連合と全国障害者福祉援護協会の謝意を表すことと致しました。

なお、次年度版は私たちの活動の中心でありますノーマライゼーションの理念に基づいて視覚障害者や家族の方々に「カタログ」だけではない「視覚障害者とその家族の総合情報誌」として発行できるよう検討して行きたいと考えております。

- ご協賛頂いた企業・団体名
- 旭化成工業(株)川崎製造所
 - 味の素(株)
 - 神奈川福祉事業協会
 - 鋼管ドラム(株)
 - 三洋電機(株)
 - (株)しよういん
 - (株)しよういん横浜
 - 全労済神奈川県本部
 - (株)東芝川崎事業所
 - 日本交通管制技術(株)
 - 日本石油化学(株)川崎事業所
 - 古河鋳造(株)
 - 松下電器産業(株)
 - メルシャン(株)川崎工場

JK協会設立される。



「この潤いが小さな社会貢献へ」の言葉をキャッチフレーズにJK協会が平成9年8月8日に設立されました。JK協会(ジャパン・カインドネス協会)は誰でもが自動販売機からジュースを買うことで社会貢献ができ、

また飲料メーカーや商店、団体などは指定の自動販売機を設置することで社会貢献ができるなど、より広くより多くの人達が社会貢献型の自動販売機による募金を通じて社会福祉活動を援助してゆくことを目的として設立されたものであります。

同日開催されました設立総会におきまして当協会の永田近理事長がJK協会の会長に選任され全国障害者福祉援護協会としてもJK協会の今後の活動に全面的に協力をしてゆくことにしています。

会員の皆様にはJK協会の趣旨をご理解頂き格段のご協力をお願い致します。

ボランティア保険を導入

全国障害者福祉援護協会のもとでボランティア活動をしている時に万が一ケガをされた場合、保険金を受給できるようボランティア保険に団体加入しました。

補償内容は左記のようになっております。

入院日額	5,000円
死亡・後遺傷害	1,000万円
通院日額	1,500円

ボランティア要員募集

お問い合わせ/
全国障害者福祉援護協会 事務局
 TEL045-411-0294
 FAX045-411-0295

社会貢献型・自動販売機の設置にご協力ください

この潤いが
小さな社会貢献へ

この自動販売機は、利益の一部を下記団体へ寄付されます。

全国障害者福祉援護協会

理事長 永田 近 TEL045-411-0294

ステッカーのある自動販売機で缶飲料を購入すると、自動的に代金の一部がジャパン・カインドネス協会を通じて、全国障害者福祉援護協会に寄付され、障害者福祉活動に役立てられます。

是非この機会にJK協会指定の自動販売機の設置に、ご協力お願い申し上げます。

全国障害者福祉援護協会

〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-22-3 伊藤ビル
 TEL:045-411-0294(代) FAX:045-411-0295

賞品をご協賛して頂いた皆様です

- 旭化成工業(株)
- (株)伊藤ビル
- NKK
- NKK京浜労組
- NKK労連
- エバラ食品工業(株)
- (株)住友
- 共栄冷機工業(株) 横浜営業所
- 鋼管産業株式会社
- 三國コカ コーラボトリング
- 東京コカ コーラボトリング
- こすもす
- 相模原南病院
- (株)サンエープロセス
- (株)しょういん
- (株)しょういん横浜
- (株)シンプル
- 全国電気通信労働組合横浜支部
- 全労済神奈川県本部
- 橋屋
- 田中けいしゅう後援会
- 東芝神静設備機器(株)
- 永井英慈後援会
- 並木やすお後援会
- ネイチャーライフ(株)
- 劇団ピッカリ座
- ブリジストン労働組合
- (株)豊和トラベルサービス
- 牧島功後援会
- 三井建設(株)横浜支店
- ミヤギ産業
- (株)村上義一商店
- 森敏明後援会
- 安田火災海上保険(株)
- 山田工務店
- UCC
- (株)有徳社
- (株)ユニマットコーポレーション
- (株)リアルエステートエージェンシー

今回も皆様方のご厚意により沢山の賞品をご提供いただき、参加者全員に贈ることができ、大変感謝いたします。

「第2回チャリティゴルフ大会」が10月21日に鎌倉カントリークラブにて開催されました。前回(5月9日開催)同様理事の皆様を始め、法人会員、個人会員、労働組合員、それぞれお誘いいただいた方々182名の参加を頂きました。平年を上回る暖かいゴルフ日和のもと6カ所のホールから一斉にスタートするシヨットガン方式で行いました。



チャリティ・ホールにて

第2回チャリティゴルフ大会に一八二名参加

謝致しております。誠にありがとうございました。

来春も引き続き第3回を開催する予定ですのでご協力ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

尚、表彰式ではゴルフ場のコンピュータトラブルによって参加された皆様には大変ご迷惑をおかけしました事、紙面を借りて改めてお詫び申し上げます。



女子の部優勝者 大竹 有紀子氏



男子の部優勝者 堂 国昭氏



聴覚障害者との交流会(中級コース)

平成8年11月に初級コース、平成9年5月に中級コースを開始。今回12月より「第3回手話教室・中級コース」を開催します。第1回の初級コースでは、受講生の殆どが手話は初めてという方ばかりなので、皆同じレベルで20回を修了することが出来ました。しかし中級コース(経験1年未満)ともなると、受講生一人一人のレベルに微妙な差がみられ、講師を務められた先生は大変気を使われ、ご苦労されたことと思います。このような状況の中で受講生の皆様

が頑張られ20回の課程を修了されたこと、当協会では昨年末スタートした「初級コース」の延長で現在「中級コース」1教室しか開催していません。「初級コース」を実施して欲しいとの要望や問い合わせが多数あり皆様にご迷惑をおかけしております。出来るだけ多くの方々が希望のコースを受講できるように検討しておりますのでしばらくお待ちください。

たことは当協会にとつて大変喜ばしいことと思います。受講生の中には手話通訳を目指している人もいれば、身近に聴覚障害の方がいるので覚えたい、また手話を知りたいより知っているほうが良いなど動機はさまざまです。受講する意識も一人一人違います。皆様からは是非続けて欲しいとの心強いご意見を頂き、12月から第3回中級コース(経験1年以上)を来年5月まで20回の予定で開催いたします。

「第3回手話教室」中級コース」開催

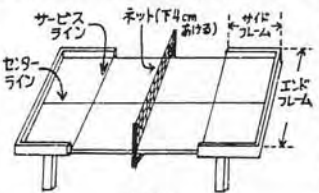
【盲人卓球とは】

普通の卓球とは違いボールを転がしてプレーする。相手の打ったボールが自分のコートのエンドフレームにあたる前に相手コートへ打ち返す。ボールがエンドフレームにあたり、コート外にとび出した時点でプレーは中断する。

プレー中は全員、弱視を問わずアイマスクをする。

プレー開始前にジャンケンをする。言葉でグー・チョキ・パーを言う。勝ったほうがサーブ権がレシーブ権、コート選択権を持つことができる。

サーブは5本ずつ交代で行う。正式には21ポイント(点)3ゲームズマッチで行うが、11点で行うことも多い。



卓球台

詳しくは下記の所にお問い合わせください。

神奈川県総合リハビリテーションセンター
七沢ライトホーム 厚木市七沢516
Tel 0462-49-2403

全労済



人生の節目には、保障を見直そう。

「こくみん共済」は「ここから」の点がたくさんあります。負担が少なく、大きな保障が得られる。保障範囲がワイド、手軽に申込み手続きができるなど。全労済ならではの加入者の立場に立った思いやりが感じられる。全国のたくさんの方々には選ばれ続けています。あなたも。選ばれた理由をじっくり確かめて、将来の安心を作ってください。

こくみん共済

人にやさしく。地球にやさしく。



全労済は「自然環境」と「高齢者」のための活動・研究を応援しています。

「保障の共済」だから、ね。

全労済神奈川県本部
045-473-6031

〒222 横浜市港北区
新横浜2-4-9

ご協力ありがとうございます。 今後ともご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

このコーナーでは当協会の法人会員を
順次ご紹介いたします。

- 旭硝子労働組合
- アサヒタクシー(株)
- 石川島播磨重工労働組合
- (株)伊藤ビル
- (株)エイセキ
- (株)エーディーエー
- NKK
- エヌケーケーブル建設(株)
- (株)大熊整美堂
- (株)オールウェズ
- 岡田会計事務所
- (有)オフ企画
- カサイ産業(株)
- 神奈川県労働金庫
- 川崎製鉄健康保険組合
- 川崎製鉄労働組合連合会
- 関東オートグラス(株)
- 麒麟ビール労働組合
- (株)クラスター
- 鋼管ドラム(株)
- 交通労連関東地方総支部
- 小松製作所労働組合
- 医療法人直源会 相模原南病院
- (株)サンエープロセス
- (株)ジェイ・エスエス
- (株)しょういん
- (株)しょういん横浜
- 湘南交通(株)
- 新日本製鐵労働組合連合会
- (株)シンプリ
- 鈴江組倉庫(株)
- 住友重機械労働組合連合会
- (株)セレモネット
- 全国造船重機械労働組合連合会 神奈川地協
- 全国電気通信労働組合横浜支部
- 全日産・一般業種労働組合連合会
- 全民懇ボランティア基金
- 全労済神奈川本部
- (株)創土社
- 多摩川ハイヤー(株)
- (有)ディーキャット
- 東京電力労働組合神奈川総支部
- 東芝労働組合
- 東邦薬品(株)
- トヨタ自動車労働組合
- 日本鋼管福山製鉄所労働組合
- 日本携帯電話サービス(株)
- 日本健康ファミリー共済
- 日本鋼管京浜製鉄所労働組合
- 日本鋼管工事(株)
- 日本鋼管鶴見労働組合
- 日本鋼管津労働組合
- 日本鋼管本社労働組合
- 日本鋼管労働組合連合会
- 日本交通管制技術(株)
- 日本鉄鋼産業労働組合連合会
- 日本労働組合総連合会神奈川県連合会
- ネイチャーライフ(株)
- 日立製作所労働組合
- 日の丸交通(株)
- プリジストン労働組合
- 平和交通(株)
- マツ・トレードサービス(株)
- (株)マネジメントサービス
- 間野商事(有)
- 丸全昭和運輸労働組合協議会
- 三井造船労働組合連合会
- 連合・造船重機労連・三菱重工労働組合
- (株)村上義一商店
- (株)有徳社
- (株)リアル・エステート・エイジェンシー
- 竜童建設(株)
- (株)ウイズ

全国障害者福祉援護協会では会員を募集しております

編集後記

昨年11月に当協会が発足し1年が経過した。回を重ねる毎に伝える内容が盛りだくさんになり、編集に力が入ってくる。今回なんとか8頁に収めたもののなんとなくごちなさが残る。読み直し見ると全体に固くしかも一人称で表現したり三人称であったりとまちまちである。この種の会報は客観的に伝えるにいく部分もあってしょうがないのかなと思いがけの3号の発行となりました。

それにしても1998年サッカーW杯フランス大会への日本出場が決まってなによりでした。 T.S.

法人会員 1口 5,000円/月
個人会員 1口 1,200円/月

指定の「加入申込書」にご記入の上、当協会までお申し出ください。
お問い合わせは「全国障害者福祉援護協会」事務局

TEL:045-411-0294
ヨイヒト ワフクシ



CHALLENGE21第3号

発行者: 全国障害者福祉援護協会

編集人: 永田 近

発行日: 1997年12月1日第3号

所在地: 〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-22-3
伊藤ビル 4F

TEL.045-411-0294 FAX.045-411-0295

シンポジウム・イベントの開催

各種イベント等を通じ、ノーマライゼーションの理念の普及を行います。



ボランティア活動の支援

ボランティア活動に参加・支援します。



障害者団体への寄付

障害者団体等への、寄付を定期的に行います。



各種研究活動

バリアフリー社会を目指し、障害者用の住宅、公共施設等の研究活動を行います。



高齢者福祉活動

高齢化によって障害をもった方への福祉活動を行います。



広報活動

広報誌の発行、出版等を行います。

